

コスモスマアのCSV経営	make Social Impact	
	コト 社会と会社の持続可能な関係創り	企業価値の向上 本業を活かした社会と共有できる価値の創造
コスモスマアのCSV経営	act Social Good	
	モノ 「社会課題解決型商品」の開発および販売	コスモスマア独自の経営ビジョン ・「デザイン+@」の付加価値を提供 ・人々の快適な生活の場の創造 ・安心・安全にこだわった資産の持続可能性の追求 ・優位性ある仕組みの創造と生活の場への環境価値の実現
	ヒト 「社員の成長と動機付け」をメインテーマとした誠実・公正な企業活動	企業としての基本的な経営ビジョン ・強固なコーポレート・ガバナンス ・法令遵守とリスク管理の徹底 ・健全な財務基盤の構築 ・ユニバーサルデザイン(人権/働きやすい環境/障がい者雇用)
企業理念	私たちは満足を超える感動を目指します	
ステークホルダー	お客さま・株主さま・ビジネスパートナー・従業員・社会	

支援分野の枠組み

コスモスマアのCSR活動は、主軸事業と相関性のある社会環境問題を優先するメイン支援、および協働・情報交換などを行うシーズ支援によって構成されています。

MAIN (メイン支援)	CSV経営を指針とし、各団体と具体的な取り組みを実施します。継続的な支援を目指し、事業性についても追及してまいります。		
東北創生支援 ふくしま連携復興センター 一般社団法人ふくしま連携復興センター http://f-renpuku.org/ RCF Revalue as Coordinator for the Future! 一般社団法人RCF http://rcf311.com/	環境・国産材活用 moreTrees 一般社団法人モア・トゥリーズ http://www.more-trees.org/ MIRU DESIGN MIRU DESIGN http://www.miru-design.com/	スポーツ文化の浸透への貢献 HITOTOWA INC. HITOTOWA INC. http://hitotowa.jp/	
SEEDS (シーズ支援)	CSR経営を目指し、各団体との関係性を構築しつつ、情報交換や共同研究を行います。		
COP21パリ協定 エネルギー削減目標の実現	1億総活躍社会の実現	港区での地域貢献	
協働団体は28期検討	働きやすい環境創り	地元における企業価値の創造	

サスモア

2016

CSVプロジェクト「サスラボ」
国産木材商品 いよいよ発売開始!

特集01

「MOCC」「WOOD BASE」
インテリアとオフィスの商品ラインナップが誕生!

特集02

さらなる新展開の芽吹き
東日本大震災 復興支援レポート



株式会社コスモスモア
CSR推進室 室長
高田祐一

サスモア2016 発行によせて

2015年度はコスモスモア3ヶ年計画の最終年度であり、業績面においても好調に推移いたしましたこと、お世話になったステークホルダーのみなさまにこの場をお借りして感謝申し上げます。

さて、これまでのCSRの取り組みにおいては、当社が建設業として本当に強い企業になるためには何が必要かを見つめながら、社会環境変化に対応し、社内外の活動の輪を広げてまいりました。

そして2015年、本業を活かしたCSVプロジェクト「サスラボ」が2年目を迎え、販売開始までたどり着いたことは大きな成果です。

現時点での商品数は限られておりますが、今後増やしていくことで、企業として社会課題の解決に寄与していきたいと考えております。

また、当社の強みである社員参加型の活動も、その関わりの輪を「協力会社、陸前高田プロジェクト関係者、社員とその家族」と広げていけたことは、社会的価値の創造という観点で共感を得られた貴重な体験であり、2016年以降の活動の糧となることでしょう。

オリンピックイヤーである2016年、新3ヶ年計画の初年度がスタートします。

安心安全・地域貢献・環境活動・社会からの評価など、一歩ずつ着実な企業活動を目指し、コスモスモアらしく、社会に誇れる「メダリスト」企業に成長してまいります。

今期の成果がより社会課題を解決できるよう、コスモスモアを応援いただければ有難く存じます。



CSR活動

2015	4月11日	キックオフミーティング CSRトークセッション
	4月20日	サスラボキックオフ
	5月10-11日	陸前高田訪問(撮影)
	6月13日	大阪営業所チャリティゴルフ
	7月17日	環境先進企業セミナーに登壇(東京)
	7月21日	港区エコプラザ
	7月24日	環境先進企業セミナーに登壇(大阪)
	7月26日	eco検定(環境社会検定試験)試験
	8月1日	SMILE CUP(チャリティフットサル大会)
	8月28-29日	安全衛生協力会 東北視察
	8月31日	家族と共に「環境活動フォトコンテスト」
	9月11-12日	東北スタディツアー
	9月15日	みなとCSRアイデアソン参加
	10月9日	キックオフミーティング CSRトークセッション
10月15日	港区ゴミ拾い、サスモア編集委員キックオフ	
11月17日	みなとCSRアイデアソン参加	
12月13日	eco検定(環境社会検定試験)試験	
12月19日	SMILE CUP(チャリティフットサル大会)	
2016	1月15日	CSR推進室 福島視察合宿

サスモア 2016

CSVプロジェクト「サスラボ」 国産木材商品 いよいよ発売開始!

04

特集01
「MOCC」「WOOD BASE」
インテリアとオフィスの商品ラインナップが誕生!

- ・ MOCC
国産ヒノキ材を活用したインテリア商品で木の温もりを身近に
- ・ WOOD BASE
オフィスに木の温もりが感じられる「心地よい場所」をつくる

10

特集02
東日本大震災 復興支援レポート

- ・ 社員の陸前高田スタディツアー開催
- ・ 協力会社と「被災地 松島を訪ねる旅」
- ・ CSR推進室 福島視察合宿へ

12

継続こそ力なり!

- ・ eco検定 目標の「資格保有率90%」を遂に突破!
- ・ アミタグループ主催の環境先進企業セミナーに登壇
- ・ ゴミ拾いイベント「芝地区クリーンキャンペーン」
- ・ 社員の家族と共に「環境活動フォトコンテスト」
- ・ 社員が続ける!事業部の取り組み
- ・ 「カノン三鷹」がオープン!スチールハウス×介護施設
- ・ 社員が参加!チャリティイベント

16

ロードマップ コスモスモアのCSRの軌跡

コラム 緒方克吉、かく語りき

18

デザインに込めた思い
編集後記
社員フォトコレクション

20

CSR基本方針
支援分野の枠組み

「MOCC」「WOOD BASE」 インテリアとオフィスの商品ラインナップが誕生!



MOCC チーム



11月12日、MOCCチームでは、岐阜県東白川町にある木材産地や製材所、集成材工場の視察を実施。木の使用部位や手入れ方法、保存方法などを確認してきました。また、保証書を作成する上で重要となる、木の状態のチェックも。生産の現場に足を運んだことで、国産材の流通に寄与する魅力的な商品を世の中に送り出したいという気持ちがより強くなりました。

栗原 奈緒子(住宅事業部 マンションギャラリー課)
高山 信暁(住宅事業部 マンションギャラリー課)
門脇 毅佳(住宅事業部 インテリアプランニング課)

WOOD BASE チーム



10月7日、WOOD BASEチームは、岐阜県中津川市加子母(かしも)にある集成材工場「東濃ひのきの家」を視察してきました。KIBACOの接合部の仕様について、木材と実際の金物を用いての協議も。原木から集成材に至るまでのプロセスを工場にて見学することもでき、伐採、製材、乾燥、ジョイント加工という一連の流れを理解することができました。

岡田 基(ファシリティ事業部ファシリティ1課)
堤 博章(デザイン設計部デザイン設計課)
寺本 亮介(ファシリティ事業部ファシリティ2課)

MOCCチーム:岐阜県東白川町
WOOD BASEチーム:岐阜県中津川市加子母(かしも)



Message

一般社団法人モア・トゥリーズ
事務局長 水谷伸吉さん

天然木は空間に温もりを与えてくれる反面、割れや反りのリスクも伴う素材です。さらに今回の商品開発プロジェクトで扱っているスギやヒノキは、広葉樹よりも柔らかく、傷が付きやすい特徴を持っています。こうした前提を理解しながら、性能面とデザイン性を両立させていくことは難しいですが、CSVの観点でも乗り越えなくてはならないハードルです。

2015年秋には両チームのみなさんと一緒に、産地の一つである岐阜を訪ねてきました。商品開発をする上で、実際に産地へ足を運び、顔が見える関係を築くことは大切です。チームのみなさんも、現地を見る前と後では木材への関心度が飛躍的に高まったようでした。

これからも地域や作り手の思いがユーザーに届けられるような、魅力ある商品を生みだせるようお手伝いしていきたいと思っています。



インテリア商品、2015年秋の発売を達成 オフィス商品もまもなく販売へ

これまで続けてきた寄付やボランティア活動に加え、いよいよ本業を通じて社会貢献を行うCSVプロジェクトとして、国産材を活用した商品開発を推進する「サスラボ」を2014年度に発足。2015年秋のリリースを目指し、一般社団法人モア・トゥリーズのサポートのもと、2チームに分かれて商品や販売戦略の検討を続けてきました。

その結果、国産材を活用した表札やミラーフレームなどのインテリア商品を提供する「MOCC」、木製ブースユニットなどのオフィス向け商品を提供する「WOOD BASE」という、2つの方向性で商品ブランドが誕生しました。MOCCチームのナイトテーブル、ベッドのヘッドボードなどの商品は、新築分譲マンション「イニシア練馬豊玉」1階の工房「セルフデコファクトリー」で、DIYキットとして2016年1月に販売がスタート。今後はプロモーションも順次進めていく予定です。WOOD BASEチームでは、木の温もりが感じられるミーティングスペース「KIBACO」、快適な環境で電話ができる木製テレフォンブース「PIT」の商品化を進行中。3月のコスモスモアオフィスへの試験導入を経て、さらに改良を加えていきます。

木材の提供はモア・トゥリーズ、デザイン・製作はコスモスモアが行い、さらにメーカーとの連携も決定しました。日本の荒廃した人工林という社会課題の解決に貢献しながら、本業を通じた取り組みによって経済的価値も生み出すという、共通価値の創造を至上命題としてきた「サスラボ」。その挑戦が今まさに結実しようとしています。



棟内モデル
ルームにて
展示中!

MOCC

国産ヒノキ材を活用したインテリア商品で
木の温もりを身近に

DIYキットとして販売スタート!

「MOCC」チームでは、比較的安価なものを個人向けに数多く販売することが森の環境改善につながると考え、魅力的で購入しやすい価格帯の国産材インテリア商品の開発を進めました。

その結果、新築分譲マンション「イニシア練馬豊玉」1階の工房「セルフデコファクトリー」にて、DIYキットとしてMOCC商品の販売を2016年1月に実現しました。

キットの一つは、国産ヒノキ材を利用したヘッドボード。香りでの癒し効果・消臭効果も期待できる商品です。もう一方は木製テーブル。こちらも国産ヒノキ材の一枚板を使ってナイトテーブルやダイニングテーブルの製作ができます。

「イニシア練馬豊玉」は、本格的なDIYによる住まいづくりをテーマにしたマンションです。1階に日本初の体験型DIYショップ「DIY FACTORY」を設けており、セルフデコアドバイザーによる無償の「セルフデコレーションサービス」が受けられます。そのDIYキットとして「MOCC」の商品が提供されることになったのです。



選択と集中を経て発売を達成

住宅インテリア「MOCC」の商品開発にあたっては、お客さまの心を掴む木製商品はどのようなものか、チーム一丸となって国産材の可能性を深く掘り下げていきました。例えば、まな板やプランターなどの日用品から、部屋の印象を大きく左右する壁パネルまで、インテリアが木材に置き換わるだけで、暮らしの空間はとても豊かになります。

まず、MOCCの商品アイデアとして挙げたのは、表札とミラーフレーム。どの家庭でも手にしやすいアイテムを提案することで、国産材の利用を促進させることが狙いでした。

インテリア販売会では、お客さまに商品アンケートを実施。「デザインがいい」「この商品を見て、生活の中に木を取り入れてみたくなった」などの嬉しい声もいただきました。しかし、興味は持っていただけるものの、購入には至らないという結果に。その理由を模索して、今一度商品企画や販売価格などが検討されました。

最終的に、ミラーフレームについては、重量の安全性、アフター保証について検証を重ねた結果、コスト・リスクの観点から優先順位が下げられることに。より良い商品を提供するために選択と集中を行い、可能性の高い商品に力を注ぐことも重要との判断です。

また、商品の検討段階から、グループ会社の株式会社コスモスイニシアとのコラボレーションを視野に入れて進めてきました。マンションの細部も日々進化しています。何がお客さまニーズに適しているか、適性価格はどのくらいか、大量生産は可能か。進化に合わせた提案が可能のように、そのような綿密な検証が行われました。その結果、DIYサービスでの木製インテリアキットの提供という、ユニークなマンション企画への参画を実現し、2015年度中の発売という目標を達成できたことは喜ばしいことです。



展示会で文祥堂さんと
即コラボ商談へと発展!

メーカーとのコラボ商品も決定!

DIYキットに加え、現在進めているのは、メーカーとのコラボレーション商品。住宅用建材・インテリアアクセサリを取り扱う河津株式会社とは、無垢の素材感を活かした手摺りとコートフックを、木質建材総合メーカーの朝日ウッドテック株式会社とは、壁・天井材となる木パネルのコラボレーション商品の開発を進めています。

昨年10月には、モア・トゥリーズ水谷さんのご案内で、朝日ウッドテックの開発ご担当者と共に岐阜県東白川町の製材所や集成材工場などを視察させていただきました。また、手摺りとコートフックについては、耐久検査にも合格。着々と発売に向けて準備が進んでいます。

さらに、来期に向けたアイテムを検討するため、展示会やイベントにも足しげく通い、情報収集も怠りません。その中でも、「IFFT/インテリアライフスタイル リビング」の展示会へチームメンバーで訪れた際には、株式会社文祥堂の魅力的なテーブルやシェルフ、カウンターテーブルやフローリングとの出会いがありました。コスモスイニシアも気に入っていたと聞き、早速コラボレーションに向けて始動。コスモスイニシアのマンションギャラリーへの採用に向けて、文祥堂と協議を進めています。現在10アイテムにラインナップも増え、商品の発売に向けて調整中です。

今後も、日本の森林再生に貢献できるように、アライアンスパートナーのモア・トゥリーズや、パートナー企業のお力を借りながら、魅力的な国産材商品を続々と世に送り出していく予定です。



WOOD BASE

オフィスに木の温もりが感じられる「心地よい場所」をつくる

いよいよコスモスモアのオフィスに導入!

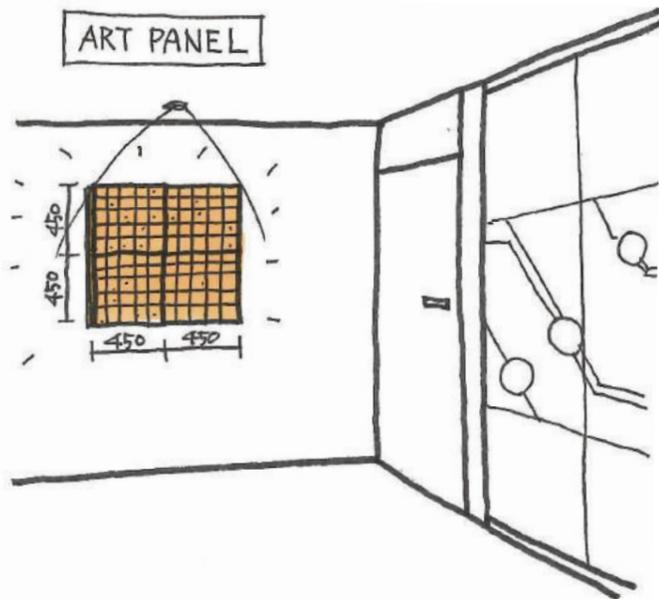
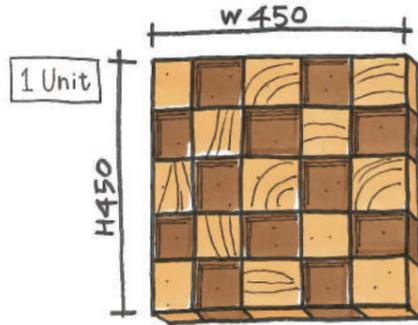
オフィス向け商品ブランド「WOOD BASE」チームでは、「大人の木育」をコンセプトに、国産材の空間商品の開発に取り組みました。

「WOOD BASE」とは、直訳すると「木の基地(基点)」という意味。「オフィスの中に、木の温もりが感じられる、心地よい場所をつくる」という思いが込められています。

プラスチックや鉄、プリントされた化粧版など、多くの人口的なものに囲まれるオフィス内に、木材が持つ「温かさ」「安らぎ」「豊かさ」を組み込み、より良い職場環境作りを「WOOD BASE」の商品で実現する一。そんな展望を描いて、「KIBACO」「PIT」という2つのプロダクトが生まれました。

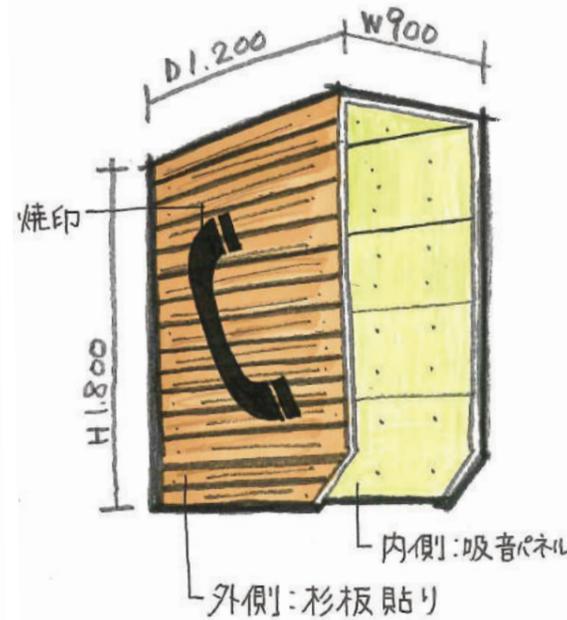


簡易ミーティングユニット「KIBACO」



木材の特徴を踏まえたアドバイスを頂きました

木製テレフォンプース「PIT」



国産材でデザインと社会課題の解決を

オフィスファシリティのプロとして、オフィスニーズを汲み取り、国産材でデザインと社会課題解決の両立を目指した商品がようやく形になりました。

一つ目の商品は、国産材(スギ・ヒノキ)で作られた簡易ミーティングユニット「KIBACO」。短時間の打ち合わせやランチ、休憩などの用途に最適な半独立空間で、設備工事也不要です。

近年、オフィス空間で求められているものは「多様性」。日常のワークスタイル・時間・業務内容によって場所を選ぶことがトレンドとなっていることから、簡易ミーティングスペースのニーズは高まっています。

そして、半オープンな状態で周囲を気にせずに電話をすることができる木製テレフォンプース「PIT」も誕生。大切な電話や長時間集中して話をしたい時に最適な空間を生み出します。

WOOD BASE商品の主な課題は、強度と吸音効果でした。利用人数、利用目的、人の行動、インテリアとの相性など、具体的な利用シーンを想像し、その利用シーンに対応するデザイン意匠、使い勝手を反映させるといった綿密な検討を実施。構造の安全性などを詰めていくことも必要でした。

そして、モア・トゥリーズ水谷さんから「針葉樹の特徴をさらに活かした商品にしていきたいと思います」とのアドバイスを頂き、商品がさらに改善されていきました。

工場で金物や木材の仕様について打ち合わせも



今後の商品展開も構想中!

「KIBACO」「PIT」の両商品は、2016年3月からコスモスモアのオフィス内に試験導入される予定です。

商品が利用される環境で実際に使い、その検証結果を元に、さらにブラッシュアップをして発売開始に臨みます。

東日本大震災 復興支援レポート

2011年10月に岩手県陸前高田市でのボランティア活動をかわきりにスタートした東日本大震災復興支援。今年も社員スタディツアー、協力会社との東北視察、CSR推進室の福島視察合宿を行いました。



岩手・宮城・福島



（社員の陸前高田スタディツアー開催）

岩手



東日本大震災から4年半の月日が過ぎた9月11日。「陸前高田の現状と未来を学び、震災復興のこれからを考える」をテーマに、社員有志32人で1泊2日のスタディツアーを行いました。追悼と復興の象徴として公園が整備される予定の松原地区沿岸部の視察、「陸前高田まちのリビングプロジェクト」の一環で創られた「りくカフェ」への訪問、復興を願うの商店街での買い物など、陸前高田に訪れることが初めての社員も多い中、各地を巡りました。

「陸前高田スポーツグラウンドプロジェクト」で支援を続けてきたクラブハウスも視察。全員でグラウンドの雑草除去を行いました。「数年後、『かなりの税金を使ったけれど、失敗した復興の街』と言われるようになるのではないかと懸念を市民は持っています」と、本プロジェクトの現地コーディネーターとして尽力されている武蔵和敏さんは語ります。

陸前高田では、高台の整備が遅れていることで自宅再建の目途がつかない、または、経済的理由で仮設住宅から出ることを諦めてしまう人も多いとのこと。そして、仮設住宅から出ても、コミュニティを失うことで孤独を感じたり精神的に苦しみ可能性もあるといった、暮らしと心の基盤がまだ整っていない現状を教えてくださいました。

そして、一同が「心の復興」の深刻さを感じたのは、陸前高田市、戸羽太市長の講話です。

「陸前高田には、遺児・孤児が多くいます。つまり、子どもたちは親に反抗することすらできない。子どもがはしゃいでいたら、それだけで大人は嬉しいのです」

陸前高田をはじめ、被災地では「遊び場不足」が大きな課題となっていますが、戸羽太市長のそのような言葉に、真の復興には子どもたちの無邪気な笑顔が不可欠であると改めて実感しました。参加した社員からは、「報道とは違う現状を国民一人ひとりが実感することが一番の課題だ」、「復興のためにやっていることが更なる問題を生んでしまわないか」といった問題提起や、「社員でサッカーチームを作ろう!」といった前向きな意見が出ました。

今後も、社員の理解と協力を得て、復興支援を進めていきます。

（1時間で手押し車
2台が山盛りに）



（協力会社と『被災地 松島を訪ねる旅』）

宮城



被災地への理解を深める輪をさらに広げていきたいと考え、昨年度初めて実施した協力会社との東北視察ツアー。今年度も、8月28日・29日の2日間に渡り、コスモスモア安全衛生協力会事務局主催で、協力会社と松島視察を行いました。協力会社20社の代表・役員を中心に26名が参加し、当社代表の緒方を始めとする役員・部次長10名を加えた合計36名での旅となりました。

石巻からのバスには、「震災の語り部」の方に同乗していただき、石巻市の被災規模から、現在の復興状況、震災時の適切な避難が評価された市立門脇小学校などについてお話いただきました。翌日訪れた松島の国宝瑞巖寺境内には、震災前に樹齢400年以上の杉の巨木が約1000本もありましたが、津波の塩害で7割ほどなくなっており、以前の静寂感、神聖感は失われていました。

視察させていただいた笹かまぼこ工場は、特に津波被害が著しかったエリアに位置します。新しい設備で稼働を始めたその笹かまぼこ工場に、復興への力強い意志を感じました。

（CSR推進室 福島視察合宿へ）

福島



福島県は、復興支援の中でも、継続的に訪問と対話、プロボノ参画を重ねるなど、特に重点的に取り組んできた地域です。2015年度も、CSR推進室のメンバーで福島県いわき市へ1泊2日の視察に向かいました。

いわき市では、「20年後、30年後の未来の子どもたちに山一面の桜を見てもらえるように」という願いから、9万9千本の桜の植樹を目指す「いわき万本桜プロジェクト」が進んでいます。その里山の一角にある、「福島・いわき回廊美術館」を訪れ、運営者の方に施設を作った経緯などについてお話を伺いました。この自然の中の美術館を中心とする地域が、いつか桜の名所になることを祈ってやみません。

2日目には、いわき市の復興飲食店街「夜明け市場」を訪問。NPO法人TATAKIAGE Japanが「夜明け市場 起業家支援プロジェクト」でコワーキングスペースを立ち上げた際には、当社もオフィス設計・施工の知見と経験を活かしてプロボノとして参画しましたが、現在いわき駅前のビルに新しくコワーキングスペースのオープンを計画しているとのこと、ヒアリングと意見交換を行いました。

いわき市では、歴史的施設の地域開放や、いわき駅前の空きテナントの有効活用を通じた地域の活性化プランが話し合われているとのこと。引き続き、設計・空間作りなど、本業の強みを活かして、福島復興に貢献できることを模索していきたいと思えます。

☆ 継続こそ力なり!

コスモスモアでは、よりよい社会や環境のために、社員一人ひとりが行動を積み重ねてきました。シーズ支援のための寄付、環境負荷低減など、全社的な活動や各事業部で新たに開始した取り組みをご紹介します。

eco検定 目標の「資格保有率90%」を遂に突破!



建設業界における建設系廃棄物は、大きな環境課題の一つです。コスモスモアでは、社員一人ひとりが環境への配慮を意識しながら事業を推進していくことが必要不可欠だと考え、全社員の「eco検定」受験を奨励しています。

CSR推進室では、今年度も傾向と対策を踏まえた過去問による勉強会を2回実施。25人の受験者をサポートしました。このような継続的な取り組みの甲斐あってか、受験を開始した2008年にわずか2.5%だった全社保有率は、2013年には85%を突破。今年度の試験を終えて、2016年2月現在の全社保有率は93.9%となり、これまで目標としていた「全社員の資格保有率90%」を突破しました。

アミタグループ主催の環境先進企業セミナーに登壇



7月、大阪の肥後橋と東京の市ヶ谷での2回に渡り、アミタグループが主催する「環境先進企業の具体的戦略&取り組みセミナー」で、当社取締役の小川陽平が登壇させていただきました。

これまでの取り組みとして、eco検定や東日本大震災復興支援、CSVプロジェクトについてご紹介したほか、2030年を見据えた環境戦略のポイントについても触れました。参加者からは、「環境に対して全社一体となって取り組んでいる点が素晴らしい」、「CSR支援活動の本気度が伝わった」といった感想も。

これまでの継続的な取り組みやeco検定保有率などの実績が評価され、「環境先進企業」の一社として選出されたことは喜ばしいことです。今後も、社員一人ひとりの協力と意識向上を大事にしながら活動を続けていきます。

ゴミ拾いイベント「芝地区クリーンキャンペーン」



10月15日、港区の企業や自治会、商店会が参加するゴミ拾いイベント「芝地区クリーンキャンペーン」があり、コスモスモアからは社員15名が参加しました。

始業前の午前8時半より、参加者約380名がエリアに分かれて清掃をスタート。定期的にゴミ拾いがされている場所ではありましたが、タバコの吸い殻や空き缶などが多く見つかりました。

仕事前の朝に体を動かすことは清々しいもの。これからも地域の清掃活動を続けていく予定です。

社員の家族と共に「環境活動フォトコンテスト」



「伝えていきたい事」 「大きなあれ」 「消さなきゃダメ」

今年度、社員の家族にも環境活動の輪を広げていきたいと考え、初めての試みとして、「夏休み家族一緒に環境活動フォトコンテスト」を実施しました。テーマは「家族」「環境活動」。家族で環境活動に取り組んでいるシーンの写真を社員から募りました。

厳正な審査の結果、最優秀賞は、テーマとの合一性が評価され、工事監理・品質管理部大阪営業所の野瀬友博氏による「消さなきゃダメ」「大きなあれ」「伝えていきたい事」の3点が受賞。家庭でのお母様とお孫さんの交流が映し出されている心温まる作品です。

このような、身近な人の環境意識啓発につながる施策も続けていきます。

社員が続ける! 事業部の取り組み

「LCC(ライフ・サイクル・コスト)」削減のための取り組み

マンション
ギャラリー課



建設業界において、資材の調達、施工から解体までにかかるコストを「LCC(ライフ・サイクル・コスト)」と言い、30~50年程度の長いスパンで考えられています。しかしながら、マンションギャラリーは通常1年で解体されるため、一般的な建築物よりも短い期間で産業廃棄物を排出していることとなります。そこでマンションギャラリー課では、設営及び解体工事の際に発生する産業廃棄物の処分方法を見直し、廃棄物量の低減と、リサイクルの促進を目指しています。一つは、現場内での分別の徹底です。これまでは、産業廃棄物として廃プラ、金属くずなどを分別及び混合で廃棄していましたが、ガラ袋へ1種類ごとに分別するルールを徹底することで、リサイクルできるものを明確に分けるようにしました。二つ目は、モデルルーム内資材の買い取りです。1年間展示されていても品質は新品同様なため、買い取っていただいた後に有効活用されます。スクラップアンドビルドを繰り返すことを避けられない業界で廃棄物量を削減するためには、今後もさまざまな策を講じていく必要があると考えています。

床サンプルの共有で廃棄物を削減

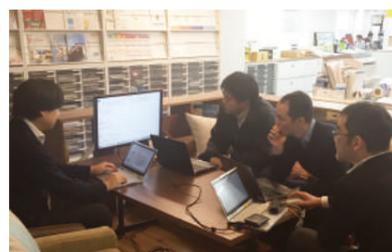
デザイン設計部



床材のサンプルを取り寄せる機会が多いデザイン設計部。ただ、この作業をスタッフ個人で完結してしまうと、一方で使用せずに廃棄したものを、一方で他のスタッフが取り寄せるといった重複が起こり、廃棄物が無駄に発生してしまう可能性があります。そこで、使用頻度の高いタイルカーペットや、各メーカーの最新作をサンプルルームの床に貼り、スタッフ間で共有することにしました。これにより、資源の無駄遣いが抑制されるようになったのはもちろん、設計スタッフ同士や、営業スタッフを交えてのコミュニケーションも円滑化しています。

モニター導入で会議をペーパーレスに

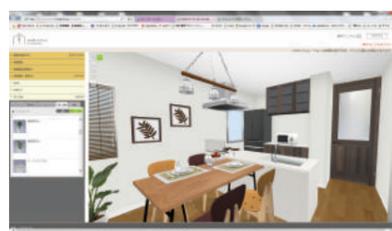
ファシリティ事業部



コスモスモアのオフィス内では、各打ち合わせスペースにプロジェクター、または大型モニターを完備しています。スタッフが固定席を持たない「フリーアドレス制度」導入により、ノートパソコンの所持率も増加。会議の時は、ファシリテーターがノートパソコンで資料をプロジェクターやモニターに投影するスタイルが定着しています。画面で資料を確認できるので、会議出席者全員に資料を印刷して配布する必要がなくなり、ペーパーレス環境が実現できました。立ちミーティングスペースでのカジュアルな打ち合わせから、顧客との会議まで、資料の投影とiPad miniなどのタブレット端末の併用により、紙を持ち込まない文化が社内根付きつつあります。

「MORE STYLE」に3Dシミュレーション機能が登場!

インテリア
プランニング課



これまで紙媒体や電話などを通して行われていたお客さまとのコミュニケーションを全面Web化した「MORE STYLE」。このWebツールに新機能が追加されました。お客さまの部屋タイプとカラーを取り込み、インテリアやオプションアイテムを立体的に表現する「3Dシミュレーション機能」です。この機能により、これまでお客さまごとに渡していた提案書やカタログが不要になり、紙の使用量が大幅に削減されました。今後も、資源の無駄遣いを極力抑えることと、お客さまの利便性の向上を両立できるこの機能を最大限に活用していきます。

「カノン三鷹」がオープン！

スチールハウス × 介護施設

「介護」という社会課題に対し、スチールハウス工法のノウハウを活かした事業を推進



スチールハウス工法を用いた建物は、耐震性、耐火性が高い上に工期が短く、コストパフォーマンスに優れていることが大きな魅力。

当社では、そんなスチールハウスの施工実績を活かし、介護施設への需要の高まりと供給不足という課題に対応する事業を推進しています。

2013年度に、土地オーナーさまと介護施設運営会社をマッチングするサービスと、スチールハウス工法による介護施設的设计・施工・デザイン事業をスタート。2015年度には、デイサービス・ショートステイの「カノン三鷹」をオープンしました。

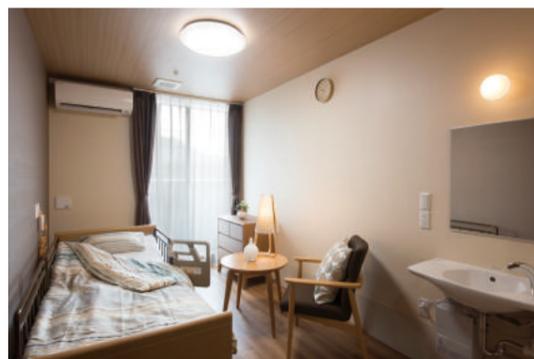
元請として、設計や内装は細部にまでこだわり、計画しました。

コンセプトは「自宅にいるような居心地の良さ」。通常、施設は白を基調とした無機質な作りになる傾向がありますが、「カノン三鷹」では、木目の天井や、落ち着いた色味の壁紙を使用することで、まるで家にいるように安心感のある居心地を実現。

照明の配置を工夫することで眩しさを軽減したり、柔らかい床材で怪我をしにくくしたりと、機能面での利点も設けています。

また、スチールハウス工法の建物には、外からの遮音性が高いという特長がありますが、施設のスタッフや利用者みなさんからは、「外の音が気にならず静かに過ごせる」という嬉しい声も。

今後もスチールハウスの介護施設事業では、設計・施工のノウハウを活かしながら、土地オーナーさまと介護施設運営会社のコーディネーターとなり、本業を通じた社会課題の解決に取り組んでいきます。



社員が参加！

チャリティイベント！

今年度も社員や協力会社と恒例のチャリティスポーツイベントを実施。CSR推進室が掲げるシーズ(種)の支援先団体と現在支援中のプロジェクトへ寄付をさせていただきました。

01. SMILE CUP(チャリティフットサル大会)



寄付先 陸前高田
スポーツグラウンドづくりプロジェクト 寄付金額 **¥98,640**

住宅系企業が集うチャリティフットサルイベント「SMILE CUP」。今年度は8月1日と12月19日に開催されました。子どもや女性も参加する中、熱戦の連続! 大いに盛り上がる大会となりました。参加費の一部が「陸前高田スポーツグラウンドづくりプロジェクト」に寄付される本イベントでは、クラブハウスに贈る石鹸を手作りするワークショップや、防災ワークショップ「ディフェンス・アクション」も実施。フットサルを楽しみながら、東北の復興や防災・減災について考える機会となりました。

02. チャリティゴルフ



寄付先 特定非営利活動法人
ビッグイシュー基金 寄付金額 **¥34,600**

6月13日、兵庫県の山の原ゴルフクラブにて、当社とパートナー企業で組織する「コスモスモア関西安全衛生協会」のチャリティゴルフコンペを開催しました。当日は13社37名が参加。晴天に恵まれた爽やかなコースでプレイを楽しみました。参加費の残額は、「3つのシーズ支援」の1つ、「特定非営利活動法人ビッグイシュー基金」が取り組む、ホームレスの人々への自立支援活動のために寄付させていただきました。

03. 東日本豪雨災害に対する義援金



寄付先 日本赤十字社 寄付金額 **¥82,000**

台風18号による大雨の影響で、9月9日から11日にかけて、関東地方、東北地方の広い範囲で、多大な人的・物的被害が発生しました。この災害で被災した地域の日も早い復旧を祈り、社員からの義援金を日本赤十字社に寄付させていただきました。被災されたみなさまに謹んでお見舞い申し上げます。

2015年度の寄付金合計額 **¥215,240**

緒方克吉、かく語りき

社会の多様性に応えるために「こだわり」と「判断軸」を大切に

「継続」と「挑戦」の両輪で前進を

コスモモアらしい CSR 活動を始めて10年目を迎え、本誌も VOL.9 となりました。多くの方のご理解とご支援を頂いたお陰で現在があります。心より感謝申し上げます。

昨年は創立25周年の節目として、社員と協力パートナー会社のみならず感謝をお伝えするとともに、未来に向けて社会性と企業価値のより一層の向上を誓いました。CSR 活動は事業活動そのものであり、小さな行いを継続することで多くの進化が生まれます。また、新しい挑戦によって新たな知見と達成感が生まれ、次なる挑戦を掻き立てる風土と人材が組成されます。

継続は力ですが、挑戦なき現状維持は企業にとっては後退を意味します。いつの時代も市場環境の変化はつきものです。今後も攻めの CSV 経営を目指し、「継続」と「挑戦」の両輪で前進してまいります。

復興支援も「デザイン+α」の理念を活かす

陸前高田市スポーツグラウンドにおける当社設計クラブハウスの竣工に合わせ、今年度も9月に社員32名と共に陸前高田市を訪問。「デザイン+α」を活かした企業活動を東日本大震災復興支援においても役に立たせたいと取り組んだプロジェクトを社内でも共有することが目的でした。戸羽太市長のお話を全員で拝聴し、震災復興に正面から向き合う旅となりました。

街全体は高台造成中で未だ住まう気配は少なく、4年半を費やした震災復興はそれほど進んでいるとは思えませんが、その難しさや課題を社員と共有しながら、将来を見据えた復興エネルギーにも多く触れることができ、有意義なツアーとなりました。

今後は、防波堤や高台造成を終えてコミュニティ復活を目指した街の創生に向かう時期となります。

今年度も新たなスタディーツアーを企画しますが、2016年7月3日には「高田スマイルフェス2016」のイベントとして、陸前高田市スポーツグラウンドにてJリーグの川崎フロンターレとベガルタ仙台におけるドリームマッチの開催が決定しました。子どもたちに夢を捧げる本復興イベントは、施設(ハード)と運営(ソフト)が合致した成果でもあり、今から楽しみです。

商品開発というCSV活動

私たちが提供する事業活動領域は、住宅とオフィスと福祉施設です。

国産材の心地良さを商品化する社内プロジェクト「サスラボ」も2年を経ました。国産材利用の専門家である一般社団法人モア・トゥリーズ水谷さんと製造工場がコラボレーションしてモックアップに着手。機能性とインテリアデザインを融合させて、今年度は市場にデビューさせ、「MOCC」と「WOOD BASE」のブランド構築を実践します。

新商品の開発は楽しいのですが、売れるという成果を出すことは実に難しいものです。自画自賛ならぬよう、マーケットに受け入れていただく使命を大切にしたいものです。



将来に向けたCSR活動指針

私たちが営む建築デザインというモノづくり領域では、将来に向けて就業人口が減る中で、働き手と働き方にイノベーションを起こす必要性があります。当社も「COOL JAPAN」の一員として、モノづくりをグローバルに発信できる企業へ成長したいという願いがあり、そのための機会創出が重要であると認識しています。

また、モノづくりと現場を大切にしながら、ICTを駆使した効率的な業務プロセスの改善を行うことも欠かせません。女性が長く働ける環境を整備することもその一つです。海外企業とのコラボレーション、外国籍社員の雇用にも着手を始めています。

当社が目指すCSR活動は、常に社会課題の解決を目指し、事業と連動した進化を遂げること。企業も多様性に順応すべき時代となりましたが、ブレのない経営も大切です。コスモモアは、今後も考え抜いた強い思いを形にするというモノづくりへの「こだわり」と、倫理観あるフェアな「判断軸」を大切にしていきたいと思います。

コスモモアのCSRの軌跡 SUSMORE ROADMAP

もっとハートが動くCSR「more♥heart (モア・ハート)」





サスモア2016 デザインに込めた思い

サスモアの表紙に描かれているのは、
もっと感動がある もっと思いが深まる、
もっとドキドキする もっと胸が熱くなる
そんな「もっとハートが動くCSR」をカタチにした、
コスモスモアの「more♥heart (モア・ハート)」。

これまで、ずっと大切に育んできた
社員一人ひとりの思いや行動の蕾が、
コスモスモアらしいCSRの花となって
色鮮やかに開花しました。

咲き誇る花のように、これからも思いをもっとイキイキと。
そんな願いをデザインに込めて、
サスモア2016をみなさまにお届けします。



2016 SUSTAINABILITY REPORT OF COSMOS MORE

編集後記

本誌も、これまでの「社員へ CSR 活動を伝えるサスモア」から、「(ネット、英語版も含め)より沢山の方々にご覧いただくサスモア」へと進化してまいりました。ネットワークが拡がり、そこから次の取り組みが始まっています。人と人の“和”がこれからも広がっていけばと思います。(小川将克)

発行人：緒方克吉
編集人：高田祐一、小川将克、仲久美子、
安藤晶子、大野竜太
編集委員：栗原奈緒子、高山信暁、門脇毅佳、
岡田基、堤博章、寺本亮介

